

巻 頭 言

『異文化経営研究』第16号発刊にあたって

『異文化経営研究』(Transcultural Management Review) 第16号を発行することができ、誠にありがたい。本号には、レフリーによる査読を経て選ばれた研究論文2篇、研究ノート2篇に加えて、招聘論文1篇と研究大会の講演抄録2篇が掲載されている。発行に至るまで多大なご尽力をいただいた執筆者や編集者をはじめ、関係者の皆さまに心より御礼を申し上げる。

今回は英文の論文が大半を占めており、英語で発信することをためらわない本学会の会員が多くいることが頼もしく感じられる。いずれも日本語の論文を英語に訳したのではなく、英語で書き下ろしたものと推定され、説得力がある。また本号に向けては多くの投稿があったが、審査の過程でアクセプトされなかったものもある。ぜひ、指摘された内容を精査して書き直し、次号で再挑戦していただきたい。採択されなかった方々も含め、投稿された方々の努力と勇気を称えたい。

さて、2003年3月に産声を上げた本学会であるが、おかげさまで会員数は400名前後に安定して推移しており、2023年には20周年を迎える。ここまで発展することができたのは、言うまでもなく会員の方々のご支援のおかげである。そして歴代の役員の方々の献身的な貢献も忘れてはならない。ここにすべての方に心より厚く御礼を申し上げる。

昨年の巻頭言では、「変わりゆく世の中であって、変わらないものは何なのか、自分の信念をしっかりと持ち、貫くことの重要性を痛感するこの頃である」と書いたが、今年はそれに「地球環境」を加えたい。令和の時代になり、自然災害がさらに頻発し拡大したように感じる。We need nature but nature doesn't need us.という表現を聞いたことがある。数年前に南極を旅した時に、人工的なものがない世界はこんなにも美しいのかと感動した。人が作り出す人工的なもの、そして人の営みが気候に与える影響を、他人事ではなく、自分事としてとらえ、自分にできることをしていかななくてはと思う。地球環境は異文化ではなく、むしろ我々人間が、地球にとって異文化なのではないだろうか。

そのような意識のもとに、これからも会員の皆さんと交流の輪を広げていきたい。様々な価値観の方々と切磋琢磨し、共通点を見い出し、共感することができるように、皆様とともに歩んでいきたいと切に願っている。

今後ともご支援を賜りたく、お願い申し上げます次第である。

2019年12月
異文化経営学会 会長
馬 越 恵 美 子